

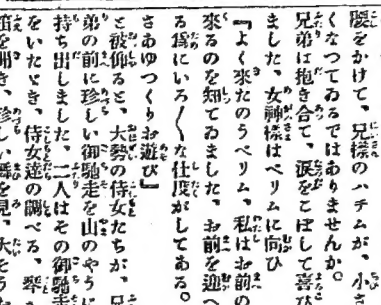
七

なかしレバシヤのある町に二人の少年がゐるました。兄様の名はハテム弟の名はベリムと云て、大そう仲のよい親兄弟な、よい子供でした。二人は毎日牧場へ行って羊を牧ふのを仕事にしておりました。ある日のこと、ハテムはあまり働かすぎた故か、少し氣持が悪かつたので、獨り家に居盛り、ベリムだけが牧場へ行きました。

あけて見ますと、不思議や四邊は少しも井の底の様には見えず、ひろいひろい野原の中にひとりゴツリと立てゐるのでした。彼方を見ると、美しい傍に、黄金でこしらへた椅子に腰をかけて、兄様のハテムが、小さくなつてゐるではありませんか。兄弟は抱き合て、涙をこぼして喜びました。女神様はベリムに向ひ、「よく來たのうベリム、私はお前の



女神が生じて居られました。ベリムは驚きして果敢と女神を叫び上げましたが、アツと叫んで走り出しました。それもその筈です。女神様の傍に、黄金でこしらへた椅子に腰をかけて、兄様のハテムが、小さくなつてゐるではありませんか。兄弟は抱き合て、涙をこぼして喜びました。女神様はベリムに向ひ、「よく來たのうベリム、私はお前の



から惶しく飛び下りて、

「ペリムさん、大騒ぎです、兄様
が井戸の底に落ちてしまひました。
お父様やお母様は眞査になつて心配
してゐるしやいふです。」と申しまし
た。ペリムは恥ぢ仰天、直ちに妻の世
語を下界に告ぐ。下界の乗來た馬
にそのまゝ飛び乗て、一目散に家へ

緑色の野原があつて、お日様がキ
ラ／＼と空にかかり、小鳥の啼く音
ものどかに聞けてきます。ペリムは
まるで狐につつまれた様な氣持で、
その野原を歩いて行きますと、野原
の果に奇い鰐があつてその中には美
しい花の潭山咲いてゐるきれいなお
しるがわらひます。

「お日様は
もうく今日を暮らしました。
夕方になつて兄弟は、女神像に四
れを告げ家に歸らうとしますと、な
神標は大そう別れを惜しんで、
「もうこれから家は歸らないで、
この宮にいつまでも住んで、毎日樂
し遊んでゐてください。」

と告仰いましたが、兄弟は


歸りました。
ペルシヤの井戸は日本の井戸とはちがひ、石を盛んでこしらへた素直しく大きな井戸側のある井戸です。その井戸のまはりにはお父様やお母様をはじめ家の者が寄り集つておひたひと遊いてゐました。ペリムは馬から飛び下りるなり、井戸の縁に寄りつてゐた大きな花が一ぱい見惚れて靜ま立てゐましたが、誰にも来る人はありません。

—— 下 ——

ペリムは、乾度兄さんも此のお庭に入つて行たに違ひないと思ひましたので、木戸を開けて中に入りまして、お庭の中は紅や白や黄色やさまざまな色をした大きな花が一ぱい

「ありがたうございますが、お父様やお母様が心配してゐらつしやいますからどうしても歸らなくてはなりません、その代りこれから一年ほど一度づゝは乾度兄弟で遊びに参ります。」と答へました。そこで女中は、

「それでは仕方がありませんからさうなすゝめです。一年づゝは遊びに参ります。」と答へました。



に映き亂れてゐて、その美しいこと
と言たら目も醒める様ですが、人影
は一つも見ねませんでした。ペリム
は不思議に思ひながら尙も奥深く進
んでゆきますと、こんもりと茂つた
森の中に、黒白な石を積み上げてこ
しらへた、美しいお宮がありまし
た。

ないで来て下さい。お待ちなさいと
土産を上げます。」
と言て、侍女に言ひつけ、金や、銀
や、眞珠や其他さまざまの寶物を選
山兄弟に下さいました。
兄弟は大喜びでお土産を買ひ、女神
様に別れを告げ、もとの道を通つてこ
井の底まで来ますと、不思議や身軀

りましたが、いきなり井側に昇つて中に飛び込まうとしましたので、お父様とお母様はびっくりして「危ない、これさべりム、氣が障しましたが、若しや誰かゐるのか」

「御免なさい」

と叫びましたが、誰も出て来る人もなければ、返事をする人もありません。おや、不在なのか知らず落

は自然にふら／＼と浮き上り、いつしか井側の所までさきました。兄弟が家へ歸つた間にお父様やお母様のお喜ひはどんなだつたせう。それから後次弟は毎年一度井の底のお宮へ遊に行かたうです。おしまじ

● 釋宗演師辭職

後任は秋山玄秀師

第九十席
田

仙臺の家が七之助夫婦を同道いたし、蔵府城内に参り、右左の寶劔を返返し申し、七之助の歸參の事を願ひます。蔵府城内に於いて種々評議に及び、豊金寶劔を納めた中せど、一沙家と縁結いたした事故の意に託參れど、此上は七之助の意に託せらるゝとあつてお聞入れがありません故、仙臺家の家臣も據なく再び七之助を連れ歸る事になりました、乃ておゆり七之助は仙臺城下へ戻つた

御城へ立寄りましたは別働でもございせんが御陣役たる貴君へ對して一段の願ひございます。主としてその願ひと申すは何事であるか。主として忠臣侯、密夜渡、渡邊、にのみ駄より忠臣を遣ふが惡人、を愛し、或は山、川、野、等、をいたしたは亂行に募りかへる。行が大公儀に聞ねば一大事、而卒貴君よりお諫めを入れて御行行に云ふ事は承つて居つた。土、



今迄の行狀を改め悔惜の爲に父の朴
 邊にて看病をいたし度と、此事を十
 井大炊頭、の詰まで曉出しました處、大
 炊頭より書を申し上げたか但しは途
 中にて詰ひましたかは存じませんが
 その事は成らんと云つて、成立ちま
 せん忠長侯は以ての外のお憤りです
 りました、子として親の看病をする
 まらんとは何事である、多くは影
 取家の命令であらう、我と家光は幼
 年の折よりして不仲であつた故に
 さぬのであらう、又役人共に途中に
 院長 醫學士 森定 吉
 小兒科
 京阪本町丁側 芙蓉醫院
 瓦町會社向側 電話三六三番
 んにいたせ不修理な事であると折角
 行狀の改りました忠長侯がまた
 駿府に於いて御亂行をなさるや
 うになりました、府は寛永九年正月
 月廿三日の事秀忠公の御病勢は益々
 重つて参りまして、秀忠公も最早

が丹倉小十郎の取組ひを以つて仙臺
家へ参祭をする事になりました、而
して三百石にてわゆりの家が立た
は、皆丹倉小十郎の取組ひでござい
ます。是まではわゆり七之助のお説
ひでございましたが、一振腕に申し上
げた駿河大納言忠長院が日光東照宮へ
代参と名付けて家老の三宅右衛門
を選はしたのは、彼は面影を申す故
その邪魔を選たのでございます、宅
右衛門は何處までも精忠な人であり
ますから、是を諷さ思ひ日光山へ参
り代参を勤めてその歸りがけに野州

左程の事さ知りません、然らば
早稲府に罷出て上野介よりぐと
陳言をいたすであらう故、其許は
安堵はれてお立歸りになるやう
斯く云はれて宅右衛門も安心して
歸る、七八日過ぎてより本多上野
正澄は駿府へ罷越し、久々にて忠
無病長壽を布る人あり
然して津村兄弟商會の

人蔘エキス
知る人々人蔘エキスに
親しむ方は一生涯全也

○八四
東京市本町

[illegible]

あざそばかす
ほれろ



 用外 清痔丸
 用内 清痔丸
 同樂 併用 面白 程能効
 聖國 内用 並 二内 外用 面白
 本舖 名古屋 京都 流川 長太郎
 全國 到處 藥店 販賣

万^もやく^{やく} なきにお困りの方は郵
券封入左記に御照
会
 あれ妙薬知ら^れ
 健康なる^{くわん} 下直ぐ御使用可也
 大評判
 品質と価格で
 M^{MP} 山田シゲ
 大評判

七歳より下の
 コトモかぜにねつ
 特效薬
 山橋内 主放
 口垣田 かぜ、ねつ
 十二、九十價

[illegible]

毛ぬえ
新
從來服毛製の損する多きと思
所製藥の肺毛を損するの多し當
の液體に於て極めて良効あり

東京牛込區 百合園製藥所
北山伏町

男のひみつ病

外醫科大學の受納と東京順天堂病院や博士學士之多數證明と醫局の
全國發明品中最高度の優等品に選定の大光藥局特許手寫式真容
生食器に自然療法器具は安全に安樂に服用し局部に外用し毎日毎
生食器に自然療法器具は安全に安樂に服用し局部に外用し毎日毎
生食器に自然療法器具は安全に安樂に服用し局部に外用し毎日毎

東京 京橋中村町三丁目五番 大坂 新橋法研究會
大坂市北區北森町一番地 大坂新橋法研究會

各種萬年筆即時修繕

京橋旭町二六六 萬年筆出張出張所

年來當地に於て出張治療中の處患者各位の
望に依り今後一ヶ月間引續き治療に従事す

久枝肛門病専門醫院

痔核。痔瘻。脱肛。直腸脱。痔出血。裂痔。外一假

京成長谷川町安車病院內電話七三三番

観劇に香晶

人許の程で悪臭に苦まず
芳香蘇精氣分ぞわやか

定價

一個入並十五錢

毒 疾 皮膚病 一般
 仁川 (宮町交番斜向)
 専門病院
 結晶香水
 三間人金料十五銭
 各處薬店小間物店
 にあり
 發賣元
 瀧澤棧國本鋪

タスアチカタニ

高崎博士倉製の本齊に從來
米及英國にて製造の品を販賣
し來りたるも今回本邦に其工
場を設け純國產品となれり
類似模造品を本劑と同一強度又は同一効力あ
りとし販賣するものあり注意を乞ふ

本劑は粉末及錠劑の二種あり

30 Gm.
TAKA-DIASTASE
ゼー-タスアチカ
第一號
No. 1
originated by
DR. JOSEPH TAKAGI
MADE IN JAPAN
三共株式會社

本會社發賣のタカチアスタキセは絶ての胃腸
 患者に常用せらるる殊に本邦人に最も多き澱粉
 消化不良症に起因する諸症に用ひて卓効を奏
 し従つて能く其榮養を増進す

東京室町 三井株式會社

るたし製創の者學

美顔ユーマー

▲有名なる美顔術大家小口みち子女士の經營せる

東京婦人美容法研究会より模範化粧液として特撰せらる!!

美顔白粉と共に各官家御用品たるの名譽を辱らざる美顔ユーマーは、東京婦人美容法研究会に於ても亦嚴密なる試験の結果、品質に於て第一等なりと認定せられ模範的化粧液として發表せらる。今や桃谷研究試験部の製品の價値到る處に於て認めらる!!

美顔ユーマーをお使いになつて

ごなたも屹度お解りになること

(一)朝使へば一日中顔色を活動と美しく保つ事

ユーマーの主成分の白色素と粘着素、これが普通の化粧液に於てあるものは全く違つた新しいものであります。學者の研究で完成した此の白色素と粘着素の作用があればこそ、朝使へば一日中顔色を活動と美しく保ち、それに化粧したやうでなくて華なりさ白くなるのです。ですからユーマーは男子の方のかく化粧に年長けた婦人の方にも此上な化粧液として持たれて居るのです。

(二)白粉の清水として優秀なる事

美顔ユーマーの性質の宜しくない方、それから平生白粉を塗り附れぬ方、然し白粉でもユーマーで白粉を溶かしてお附けになれば、白粉が思ふにいふ事をきいて、少しもお肌折が無く美しい化粧が出来ます。況してや、顔の方々はユーマーさへ清水に於て使えば、お化粧の美事さでヒラを取る様な事はあり(ません)。「さうしてあゝ美しいお化粧が出来なさるのだらう。」一度でも使

(三)アレルギーを防ぐ事

の妝を思つた方は、先に白粉の清水にユーマーを於て御覧下さいまし。直ぐお解りになります。

(四)垢をケする事

これは美顔化粧液に於ける効用で、この作用の確かな美容素を御覧するまでに、桃谷研究試験部では實に多大の苦心を積んだものであります。美顔ユーマーを於けて常用してお居になれば、日毎々顔の顔色の美しさばかりでなく、既に垢をケして、顔の美しさを増す事はごなたも明かに御感じになる事でありませう。

美顔ユーマーの品質の優れた事が社會の凡べての方にお解りになつて、今や到る處に非常な賣行を示して居ります。

致候間多しに不
以て販賣し特に多
店儀例年の通り最

注文次第早速御送附申上候

付三圓五十錢以上	付三圓廿五錢以上	付三圓十錢以上	付四圓二十錢以上
----------	----------	---------	----------

付	付	付
三	四	二
圓	圓	圓
以	以	以
上	上	上

付	付	付	付	付	付
三	四	七	七	一	三
十	十	十五	十五	圓三十	圓三十
錢	圓	錢	錢	錢	錢
以上	以上	以上	以上	以上	以上

江商
店

ニテテ商會本店

職員續きの……

復讐

金館

進
は何？

精力増進

精 Ⅱ 元氣旺盛
諸症平癒
家庭圓滿
(内外用)

萬二千兩
金四圓
六十日分

店り候
 熊平支店
 電話 六二四番

拂込濟

業銀行

豐田明敬
八四九番
〇六二番
仁川支店

六〇六番 平澤支店
八六三 東大門出張所

[illegible]

怒壽の月

小林蹴月作 武内桂舟書

袖の涙「二十」の六

「怪しからん、原口、貴様が此の組代さまを玩弄物に爲さうと思つてゐるのか」

村山は、前後の事狀から察して、組代が今夜初めて突き出されるお客と云ふのは、此の原口である事を知つたのである。

「村山さん、然う云ふ譯ぢやないんです。僕はほんの通りがゐりて、何の氣もない」

「嘘を吐いても分つとらんぢや。貴様のやうな落着き生が多いからこそ自然斯う云ふ所が、行立つんぢやあら

である。

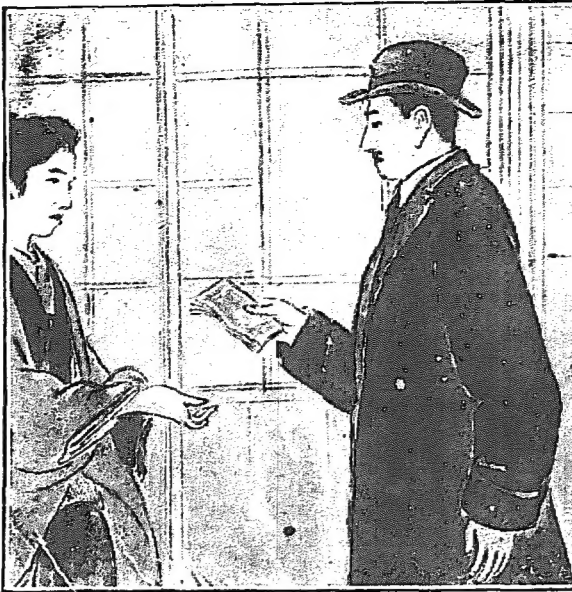
「出せと被仰るなら出しても爲ますが明日は必ずお返し下さるんでせうね」

村山さん。

「聖徳さん。人命救助の爲めぢやから、一時の融通位は、何でもない話ぢや。その代り、貴様の今夜の行爲だけは、大目に見てやる」

「藏にはや……有がたい仕合せで

原口、自身の了簡では、今日還く國元から爲替が届いたので、それを懷中中に、今夜は思ふ儘の遊興を盡して明日の朝になつたら、直に便ひを聞



うが、此の種代さんは、良家の奥女なんぢや。そして其處に居る倉松君とは、親からの許婚の仲なんぢや。見れば、貴様は多少の金を懐中に入れて居るやうぢやから、それを吾輩に明日まで貸せ。

「いゝ、金は國元から本月分の俸費が本月の夕刻著し舞ばかりので、まだ郵便局から受取すにあるんです」「小爲替なら御更帳費ぢや。それを吾輩に見せろな、に、例月の通り、食費から月謝で三十五圓ぢや。好し、三十五圓あれば、吾輩の洋装にも十圓位は旅費の残額があるから、合算すりや五十圓近くになるんぢや。早くそれを出せ」

原口は、飛んだ所で飛んだ者に出會つたもので、散々腹痛め付けられた上に、俸資金を變らずに寄き上げらるゝに至つては、治前と縁の大災難す。

まで走らせやうと云ふ方であつたが、爲替屋の鹽村山に貸與へて了つたんで、全作する事も出来なない。云つて、それを出さずに居れば、來月からは首と胴との繼目が危くなるのである。無念ながら、恩人の命に従つて、三十五圓の小爲替を吐き出して、了つた。

「うむ、確かに三十五圓ぢや」と、村山は、自分の財布を逆さに振つて、合計五十圓に數めた。

「其處でぢやお主婦さん、今實地を見て居られる通りの仕儀ですから、無理かも知れんが、君の方でかれが知つて居らるゝ此の原口吉備云ふ……こりや僕と同郷同村の親戚生ぢやから、此の男を保護人に立ててますから、残り五十圓の所は、明日の正午まで猶豫して貰ひたいんです」

村山は、五十圓をお墓に突き付けながら、改めて黙秘を開始したのである。

お墓も、最初は四の五のと言ひたさうな態度であつたが、實を云へば手初めのその晩から斯うしたケチの附き出した相代である。強て強情を張つて見た所で、どうせ思ふやうな汁を取ふ事は臆かしいに違ひない——其處は流石に道に依つて賢しいの先見を下したのであらう。

「折角ね、それ程に獲仰つて、五十圓のお金まで遣いてらしめる譯なら、仕方がありませんから粗ちやらんをお客に出す事大には、見合はせて逃げませう。けれどもね、後金の五十圓を預藏するまでは、玉をお渡しする譯には参りませんかい、それは嫌じめ御承知でせうね」

▲白耳義對講和の問題に就いて一場の演説を試みた曰く自耳義は近代史上未曾有の破壊に達著した止むなく英國に頼つて自耳義の正義を世界に訴へたのだが然し自耳義の社會黨は獨逸の労働者に對して復讐の念を包蔵するものではない唯だ獨逸の民衆が獨逸の軍國主義を模範せぬ限り前日の如き各國の社會黨を同列にして自由の討論を樂んだ様な協同は再び實現し難いではなかろうか

隨鵬(社)謹啓
三月十一日於英伊魯會

新刊紹介

[illegible]

▲佛國社會黨の講

蘭西社會黨の少數派代議士ロンゲーは此項マンチエスター市の英國労働者大団に列席して演説を試みた其一部に於て佛國の社會黨は開戦以來軍事公憤にも然らず投票しなれども併し各團共同の労働者の理想を忘れるものではない國家に忠誠といふ事と此の理想とは決して衝突するものではないのに近頃社會黨の一部で戰争の爲めには此點を忘却したかの觀有るは固かに此種の戰爭の爲めに最も善境に陥つた佛國の一部マルスやベルプオルの社會黨員が全部組織して居る各國社會黨の聯絡の途を再び開く事に熱心賛成して居るのは注目すべき現象ではあるまいか昔れ等は獨逸の軍國主義を忌むに於て人後に落つるものでは無いが夫れを破壊するのは猶更だ衆自身であらねばならぬと之に次で白日我舞動廳前ドラング

●(二)「博覧會場並當街土名内」
留字と作文文藝部 (五號東京市外環
町一六日本習志運動會)
安東商業會議所月報 (二月號) (關土
本館發行處發售所)
大日本新聞社 (三元) (五號東京市越中
區四丁の四三三)
大坂商業會議所々々月報 (二月號) (一
元) (大阪府發行處發售所)
住宅三月號 (五號東京市板橋平河二廿
八番地)
人格と幸福三月號 (十號京都市祇園錦
獨立公論二月號) (十號京都府北
光田一ノナニヤ街キナンベグク〇〇
陽明三月號) (十號大阪府生玉寺村〇
千代田二月號) (十五號東京市淺草區成
仁町二丁目)
農業雜誌三月號 (八號京都市麻布區南
井田一丁一號)



御 料

粧化薄たし泊淡

粧化濃なか麗艶

御 園 白 粉

朝夕の身嗜みのお化粧さか又御多忙
しい折の御化粧には、誰方にも極く
手輕に淡泊した薄化粧の出来る水白
粉御園の目をお用お遊ばすが御便利
て御座います。其れには皮膚の荒れ
を防ぎ肌理を細かく滑かにし、白粉
の附着をよくする化粧水御園四季の
花をお塗りになりますして、其の上に
此水白粉御園の目をお粧り遊ばせ。

旅行、散步、芝居見物、買物、訪問
等の場合には艶麗やかて極く高尚な
濃化粧が相應はしう御座います。其
れには濃化粧用の白粉下御園の膏の
極く少量を掌に取り分けよく煉る様
にして、襟から顔にかけて斑なく丁
寧に均て込みまして、襟には樂屋用
御園固煉白粉を用ゐ、顔には普通の
御園煉白粉をお粧遊ばすに限りま

御料御園白粉
發賣元

伊東胡蝶園

◎丸見屋商店

(230)

[illegible]